

淡路宗務支所報「海響」
 [第24号]
 令和6年(2024)3月15日
 題字・弘法大師筆

発行所 高野山真言宗淡路宗務支所
 支所長 鈴木 暉 導
 兵庫県洲本市五色町都志1344
 多聞寺中 TEL0799(33)0736

海響

お大師さまのことは
 三災大劫の
 未までも
 霊山に仏
 常になす
 「秘蔵宝鑑」

いかなる災難に遭遇しても、
 霊鷲山には仏が常におられる



華道高野山

生ける人の心が
 花の表情です

淡路寺族婦人会

編集後記

令和六年一月二日、午後四時十分。石川県能登地方で最大震度七とされる地震が発生いたしました。震災に遭われた方、ご関係の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

編集者である私も含め、これを読んでいただいている皆様の中には、阪神淡路大震災を経験した方であると思います。当時、私の祖母宅も全壊し家族の思い出の品も消失しました。それ以降も、日本では災害が数多く起り、私自身もボランティア活動に参加したこともあります。

そのような中で気づかされたことは、何よりも孤独孤立が辛いのだということです。

「温かいお風呂や足湯が気持ちいい」「遠くまで色んな人が来てくれたことが嬉しい。近寄りたがらない人が多いのではと、寂しくて辛かった」そんな声を聞き、物と心と両方の寂しさをケアする大切さを学びました。

発生以降余震も続く中、様々な環境で孤独孤立と闘う方々は数多くいらっしゃいます。私たちも、一人一人が出来ることを考え、行動しなければなりません。人の心が動くスピードは一人一人違います。だからこそいつも、いつまでも「寄り添う」ことが大切なのではないでしょうか。

それが心を持つ者としての役割だと強く感じます。

合掌

研究会だより

十一月二十九日三十日、兵庫ブロック協議・参与・檀信徒研修会が、但馬支所担当城崎温泉の城崎国際アートセンターにおいて但馬・播磨・兵庫・淡路より二百六十一名の参加があり開催されました。

【研修初日】
 ・布教「お大師さまとともに・・・」
 ・「コロナ禍で私たちができること」
 高野山真言宗本山布教師 家田莊子僧正
 自身が四国八十八ヶ所巡拝を歩き遍路されている経験からのお話でした。毎年一年掛けて満願されていて、今年で十六年目だそうです。

・講演・演奏「怒しみの心 世界へ響け」
 医学博士・二胡奏者 姜 曉麗(ジャン ショウイェン) 女史による、素敵な演奏、素晴らしい歌声 優しいお話、素敵なひとときでした。

【研修二日目】
 ・講演「仏像の楽しい見方」
 イラストレーター・文筆家 田中ひろみ女史が仏像の成り立ちや色々な仏像の特徴を分かりやすく説明されました。

・講演「高齢者の人権について」
 高野山真言宗人権局長 藤本善光僧正がご自身の法務の中で高齢者との出来事など楽しくお話されました。

令和六年度は、兵庫宗務支所が担当となります。是非、参与会に入会され研修会に参加ください。

◎入会について

参与会は、お大師さまのご誓願をお助けすることを目的とする高野山真言宗の公式団体です。

お大師さまや真言密教の魅力、高野山の良さを広める活動にも参加できます。参与会入会希望の方は、御縁の御寺院さまにお申し出ください。

会員になられますと高野山真言宗管長(参与会総裁)より委嘱状をお届けし、参与袈裟と参与バッジが授与されます。

【会員特典】
 ・高野山諸堂・霊宝館 内拝無料
 ・金剛峯寺参拝時 記念品贈呈
 ・「月刊高野山」、高野山真言宗発行のパンフレットがその都度届きます。
 ・山内でのご飲食、お買いもの特典
 ・物故者慰霊・奥の院にある根拠・参与物故者慰霊碑
 ・参与会員のご芳名をおまつりし永く供養

【会費】年会費 一万円

Instagram: インスタ
 ホームページ: ホームページ



御宝完念誦運動への浄財
 本山総額(累計) 一、一七〇、七五二、五三七円
 淡路志納分(累計) 三〇、二二九、三四二円

御写経奉納巻数
 本山総計(累計) 二、七七九、一一二巻
 淡路奉納分(累計) 五三、五二六巻

御写経のすすめ
 一日のひと時、御写経をしてみてはいかがですか。無心で御写経をする時間で養った「心の充実」を活かして、より良い明日を迎えましょう。

令和五年度(敬称略) 淡路宗務支所小史

支所下寺院の慶事をご報告申し上げます。
 心よりお祝い申し上げます。

【住職在任五十年表彰】
 沼島 神宮寺 中川 宜昭
 令和五年十二月八日

【新任職】
 古宮 常楽寺・正 牧戸 元慶
 令和五年 三月十二日
 倭文 平等寺・正 金屋 佳尚
 令和五年 四月一日
 久野々 常隆寺・正 國本 雅人
 令和五年 五月十三日
 榎列 榮福寺・正 岡崎 哲秀
 令和五年十月一日
 榎列 長福寺・兼 岡崎 哲秀
 令和五年十月一日
 松帆 片寺・兼 岡崎 哲秀
 令和六年 二月一日
 ※正住職 兼 兼務住職

檀信徒協議会理事
 一 教区 北浦 義久
 二 教区 寺西 一夫
 三 教区 太田 隆夫
 四 教区 高谷 秀男
 五 教区 永田 秀一
 六 教区 岸本 敏彦
 七 教区 中田 敏一
 八 教区 大江 俊一

参与会淡路選出評議員
 一 教区 清水 邦樹
 二 教区 寺西 一夫
 三 教区 森 衣代
 四 教区 橋詰 計介
 五 教区 山崎 恭路
 六 教区 池尻 明人
 七 教区 坂本 勝利
 八 教区 藤本 和宏
 八 教区 小池 春六
 八 教区 榎本 晃明
 八 教区 數田 直愨

高野山真言宗淡路宗務支所
 洲本市五色町都志一三四四 多聞寺中
 TEL〇七九九(三三)〇七三六
 FAX〇七九九(三三)一四二九

事務取扱所(庶務課)
 洲本市五色町都志下六九三二 西泉寺中
 TEL〇七九九(三三)〇六九三
 FAX〇七九九(三三)一七〇〇

支所長 鈴木 暉 導
 副 長(庶務課) 三宅 一弘
 (会計課) 寺内 有孝
 (教務課) 笹津 寛照
 (講社課) 本間 敬英
 (弁天総長) 和田 光永
 (弁天庶務) 國本 忠孝
 (弁天会計) 野崎 康弘

自治布教団団長 笹津 寛照
 副団長 長谷川 惲也
 副団長 樹下 真快
 総 監 本間 敬英
 庶 務 森 大誠
 会 計 岡崎 哲秀
 青年教師会会長 岡崎 哲隆
 寺族婦人会会長 和 隆子

代議員会
 議長 八教区 瀬尾 弘澄
 副議長 一教区 若林 義導
 三教区 岩坪 泰圓
 四教区 林 真康
 五教区 佐竹 清志
 六教区 河野 泰真
 七教区 林山 伸樹
 八教区 高見 哲寛

書記 山本 大雲
 金銅 真宏

宗会議員 南岳 利英

高野山真言宗青年教師会
 常任理事 堀部 泰博
 事務局員 長谷川 惲也

厄年

長い人生の中で、肉体的・精神的に変化が生ずる時があります。その時期に当たる年を「厄年」といいます。この時には災いが起こりやすいとされ、慎んで生活を送ることを勧められます。しかし元々は役割の「役」が「厄」に転じたと言われており、仕事や地域、家庭などで役割を与えられる年になったことを意味しています。この時に心の準備を怠らないよう先人は「厄年」という習わしを考え、寺社においてご祈禱を受け神仏のお加護を頂いていました。

そして厄年に当たる年齢は、それぞれの立場において最前線でご活躍されている年齢と重なります。何事においても忙しいと言える状況です。「忙しい」という言葉だけ切り取ると一見充実しているように感じられますが、「忙」の言葉を分解すると、心をなくすとなります。まさに自身を見失うことです。

そんな自分を見失わないためには、全力で駆け抜けている状況から離れ、一度立ち止まり、自身を見つめ直す事です。これは竹を例に出すと、竹は成長のスピードが早いことで有名ですが、節目ごとに伸びていきます。では、この節目は何のためにあるのか、それは、節目があれば、しなることができるからです。ただ、伸びていくだけでは力が加わると折れてしまうのです。そして節があるために、どんな強風にあってもしなやかに曲がり、立ち直ることができるのです。

「厄年」という人生の重要なときに立ち止まって自分自身を見つめることで、心の内に節(指針・目標など)が形づくられます。これが人生の節目となり、今後、困難・苦難・逆風といった風に吹かれても耐えることができ、また再び走り出すことができるのです。これこそが本当の意味で充実した人生を送ることができるということではないでしょうか。

南無大師遍照金剛 合掌

筒井 薬王寺 住職 堀部 泰博



鈴木支所長による慶讃文



普通寺 菅管長祝下



普通寺での法要の様子



海岸寺本堂

今回の真言教学講習会を通じ、改めてお大師さまのご縁を深く結ぶことが出来たことに感謝申し上げます。

宗祖弘法大師御誕生一二五〇年記念法会 第六地域伝道団報恩法会



金堂への進列の様子



金堂での法要の様子



長谷部管長祝下



稚児行列の様子

令和五年六月四日(日)高野山に於いて、宗祖弘法大師御誕生一二五〇年記念大法会・第六地域伝道団報恩法会が執り行われました。

この大法会は、令和五年がお大師さまの御誕生

一二五〇年という記念すべき年であることから、お大師さまの御誕生日の六月十五日を中心とした同年五月十四日(日)から七月九日(日)の期間中、高野山で各地域伝道団による法会が行われ

ました。

「いのちよ輝け、大師のみことと共に」のスロガンのもと執り行われた大法会は、お大師さまの誕生をお祝いするとともに、子供の頃から聡明であった

お大師さまにあやかり、現代の子供たちが元気で健やかに育つことを願う法会でもありました。

我々、高野山真言宗 淡路宗務支所は第六地域伝道団(播磨・但馬・兵庫・淡

路)に属する為、先にあります通り六月四日(日)の法会に出仕して参りました。また、それに併せて淡路宗務支所といたしましては、檀信徒の皆様にも法会を見ていただいたという思いから、高野山日帰り参拝を企画し、各菩提寺を通してご案内をさせていただいたところ、一〇八名の方々にご参加をいただきました。

部真道院下よりお加持を受けました。その間、参拝者の方々は壇上伽藍に移動し法会の開始を心待ちにします。法会開始の午前十一時になると、総勢七三名の稚児行列と約五〇名の法会出席者である僧正によるお練りが始まり、蛇腹道より壇上伽藍の金堂へと列がなされました。

特に稚児行列には八名のお子様のご参加くださり、法会の際に僧正方と共に練り歩いたその姿は、何よりのお大師さま御誕生のお祝いになったことと強く感じます。

参拝者の皆様にはお練りの見学、法会中はお焼香を行っていただき、お一人お一人がお大師さまの御誕生を祝い、日々の感謝 世界平和を願う様に、心静かに手を合わせておられました。

当日、稚児行列に参加のお子様とご家族・参拝者の方々は、それぞれ島内各地の指定乗車場所より団体参拝用のバスに乘車し、稚児行列参加の皆様は午前九時に、参拝者の皆様は午前十時に高野山へと到着致しました。

記念すべき年の大法会に多くの皆様と参拝しお大師さまの御誕生をお祝い出来ましたことを嬉しく思うと同時に、参加いただきました皆様へ厚く感謝申し上げます。

午前九時よりお子様は大師協会にて稚児衣装に着替え、子供授戒に参加し長谷

法会後には、昼食を済ませ改めてお大師さまがご入定されております奥之院御廟へと参拝し、一同下山いたしました。

慶讃文

謹み敬って真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆ことには普通寺御本尊薬師瑠璃光如来 宗祖弘法大師遍照金剛 三国伝燈諸大阿闍梨耶、総じては仏眼所照一切三宝の境界に白して言さく

当寺は、恵果和尚の住し給う青龍寺を模して御父田公卿の寄進せし地に、弘仁四年六月十五日に落慶し、父の諱「普通(よしみち)」をとりて「普通寺」と号す。現在、真言宗普通寺派の総本山であり、四国八十八ヶ所霊場の七十五番札所として信仰を集める

当御影堂には大師唐にわたる際、母玉寄御前のため写したる秘仏・瞬目大師(めひきだいし)像が祀られ大師信仰の聖地なり

本日、淡路宗務支所真言教学講習会を移動講習とし宗祖弘法大師御誕生一二五〇年の年に普通寺にて一座の法筵を展べ、慶讃の厳儀を修して本法業に供し奉るとは喜ばしい哉

仰ぎ願わくは、高祖弘法大師 我らが想いを哀愍納受なましめ賜らんことを重ねて乞う

金輪聖皇 天地地久 密教紹隆 伽藍安穩

天下泰平 万民豊樂

ことには 本日淡路島より参詣の善男子善女人

檀越信徒 息災饒益 過去精靈 増進菩提

護持大衆 現当利益 乃至法界 平等利益

南無大師遍照金剛

南無大師遍照金剛

南無大師遍照金剛

維時令和五年十月二十六日

淡路宗務支所 支所長 鈴木瞭導 敬白

お大師さまの御誕生の地をめぐる

高野山真言宗淡路宗務支所 真言教学講習会

令和五年十月二十六日(木)「高野山真言宗淡路宗務支所 真言教学講習会」お大師さまの御誕生の地をめぐる」が一〇九名の参加者のもと開催されました。令和五年はお大師さまの御誕生一二五〇年という記念すべき年にあたる為、真言教学講習会ではお大師さまの御誕生の地であります香川県へと向かい総本山 普通寺・屏風浦 海岸寺に参拝致しました。

当日はまず、午前十時に普通寺に到着し、金堂を参拝。その後、御影堂にて一座の法要を執り行いました。金堂では普通寺職員様から直接ご本尊様の説明をしていただき、初めて聞く内容だけでなく特別に教えていただいた内容も多く、皆様が一言一句聞き逃すまいと耳を傾けていました。

また、御影堂での法要後には、総本山 普通寺 法主・真言宗普通寺派 管長 菅 智潤院下より御垂示を賜りました。

御垂示の中で菅院下はお大師さまのご誓願である自利と利他の重要性に触れ、「自利とは自らの内に菩提心が存在するという目覚めにはなりません。」と説かれました。法要後には「戒壇巡り」に入り、参加された皆様は暗闇の中、手と足を進める場所を一つ一つ確かめながら参拝致しました。その後、昼食をとり午後一時三十分海岸寺に到着し大師堂にて参加者全員で

般若心経等のお勤めを致しました。お勤めの後にはご住職様からご法話を賜り、海岸寺でお祀りされております「お大師さまが御誕生された際に産湯で使用されたタライ」を拝見させていただきました。

出発の際には、海岸寺ご住職直筆の般若心経で描かれた次年の干支色紙を一人一人にお接待として用意していただき、大変貴重な時間となりました。

仏さまのおはなし

池ノ内 地藏寺
住職 大木裕文

文殊菩薩



もつとも短いお坊さんにまつわる小話を紹介いたします。短いですから聞き逃さない様に、それでは「おい、あそこ歩いてる人お坊さんと違いますか」「そう(僧)・・・」

かつてない人が約五人程、それではもう一度「おいあそこ歩いてる二人連れお坊さんと違いますか」「そうそう(僧)・・・」

まだおわかりでない方が約二人程、皆さんはもうおわかりやと思いますので一緒に「おいあそこ歩いてる三人連れお坊さんと違いますか」「そうそう(僧)・・・」

と声を合わせるといふ小話です。

さてお坊さんも三人揃ったところで「三人寄れば文殊の智慧」という諺があります。凡人でも三人よれば文殊菩薩様のようないい智慧が出てくる。ということわざの通り知恵の仏様です。お姿は仏の智慧を表す経典と八本の力が備わった利剣を持っています。お大師さまは般若心経秘鍵の中で「文殊の利剣は、八つの否定の力をふるって私達の煩惱、とらわれの心を絶つ」と言われています。八不(八つの否定の力)とは、不生、不滅、不断、不常、不一、不異、不来、不去の事で、私たちは常に大小、増減、上下、美醜、有無などの相対の考えで全てを判断してしまします。例えばお金を増やそうとすれば欲が出ます。減れば不安が出ます。増える事も無く減ることも無ければ欲も不安も出ません。その利剣をふるう事で全てが有って無いようなもの「空」という執着の無い世界にたどりつき真実の眼を開く事ができるのだと、文殊様は教え導いて下さるのです。

生かすのち公開講座
教務課 自治布教団
令和6年度
■時間 午後一時三十分より
■会場 洲本市文化体育館 二階会議室

真言法話の集い

- 四月二十一日(月)《第二六七回》
「花は合掌の姿」 富山 日照院 糸数寛宏
- 五月八日(水)《第二六八回》
「季節の養生」 育波 成樂寺 湯口展弘
「あたりまえ」 浦 法導寺 竹原祐乘
- 六月五日(水)《第二六九回》
「守り伝えていくこと」 上内膳 千光寺 岡崎哲英
「みほとけのみこころにちからえて」 池ノ内 地藏寺 大木裕文
- 七月十日(水)《第二七〇回》
「信心の向かう先」 浦 法導寺 竹原正基
「死後のお話」 志筑 八幡寺 野崎康弘
- 九月十一日(水)《第二七一回》
「風水害に対する備えを考える」 洲本市総務部消防防災課主任 赤松崇志氏
- 十月九日(水)《第二七二回》
「ほとけごころ」 広石 持明寺 樹下真快
「死ぬってどういうこと？」 尾崎 長泉寺 竹本仰雲
- 十一月十三日(水)《第二七三回》
「母念の心」 佐野 八淨寺 岩坪泰圓
「みほとけの聲」 中川原 大照寺 本間克佰 (祝勝会)

懺悔文

志筑 八幡寺
住職 野崎康弘

我昔所造 諸悪業
皆由無始 貪瞋癡
従身語意 之所生
一切我今 皆懺悔

【意識】
昔から私が造りし諸々の悪業は、はじめもわからない過去世からの「貪・瞋・癡」の煩惱に影響された自らの行為や言葉として思考により生まれたものである。私は今、それら全てのことを頭に「懺悔し奉る。」

この偈文は、修行僧はもちろんのこと仏道を歩む我々にとって常日頃から最も大切にするべき心構えである。高野山での生活を思い起こすに、全ての修行は懺悔から始まった。無智により悪業の垢にまみれた我が言葉や我が身、我が心を御仏の前で頭に懺悔し、同じ過ちを繰り返

さないことを誓うことにより、それらを清らかならしめるためである。知ってか知らずか、人は口で悪口を言い、心で不平不満を思い、体で他を傷つける。大なり小なりの罪咎の塵がいつの間にか堆く積り自らを覆い尽くしてしまっているのである。そうなる人は暗闇に閉

が見えずらくなり、実には不便に感じてしまうのだが、歳をとれば体は衰え腰は曲がり、顔には皺が増えていくものである。自分の体の老化現象を止められる人間は誰もいない。自分の心も同様に、嫌いな人を前にすればイライラし、好きな人を見ればドキドキする。これも制御することができないものである。しかしながら、我々は自分のものではないのに、あろうことか他人の体や心を支配しようとするのだ。全くもって本末転倒である。自分の得意なことをコントロールできないのに他人をコントロールしようとする。将に愚の骨頂と言えよう。この真理を知ろうとしないので、我々は再び貪り、想いが叶わず憤る。そしてまた知ろうとせず貪りと憤りを繰り返す。永遠に三毒の無限ループから抜け出せないのである。「貪・瞋・癡」この三毒から離れる方法は、先ずは「世の中の事象は自分の思い通りになることは少ない」という真理を知ることである。それを知ってしまえば無駄に貪ることもなくなり、貪らなければ思い

ざされたかのように周りが見えなくなり災禍が自身を襲う。一寸先も見えぬ暗闇は恐怖でしかない。しかしながら御仏は我々がそうならないために教えを説き続けておいでだ。偈文の二行目下段に「貪・瞋・癡」とあるが、これは「三毒」と呼ばれ、苦しみを生み出す根源とされるものである。貪り・怒り・知ろうとしない。我々は欲があるが故に「あれもこれも」と手に入れたいと願ひ「貪る」のだ。残念なことに、世の中は自分の思うようには中々いかない。だから「憤り」の心を起こし周囲に当たり散らし、気付けば周りの人は遠ざかり孤独となってしまっているのである。さらに我々は「知ろうとしない」のである。何を知らうとしないのか。「この世界は自分の思い通りになるものは少ない」ということを知ろうとしないのだ。人は誰しも歳は取りたくないものだ、私は最近、老眼が始まり文字

令和6年度 巡回布教日程

「高野山の法話」
高野山の僧侶の法話を、パソコンやスマートフォンで気軽にご覧になれる「高野山の法話」が視聴できます。配信時間は約10分。毎月1日、15日の隔週で新しい法話がアップされています。

四月二十三日(火)	一教区	法導寺
四月二十四日(水)	六教区	平等寺
四月二十五日(木)	五教区	西泉寺
四月二十六日(金)	三教区	八淨寺
四月二十七日(土)	八教区	妙観寺
四月二十八日(日)	五教区	勝楽寺
四月二十九日(月)	四教区	大照寺
四月三十日(火)	七教区	賢光寺

本山の布教師さまが、島内各寺院を回られ、管長さまの御言葉とお授け、布教をしていただきます。

通りにならないこともなくなるので憤ることもなくなるのだ。そして三毒が消え去れば暗闇は晴れ、心は安定し、自らの行為や言葉が整うはずである。日々、我々はこの懺悔文を唱え、御仏の前に我が心を頭に三毒に侵されていなか、言葉は穢れていないか、そして自らの行為を顧みて反省すべきなのである。実に単純なことであるが、これを実践しようと思えば、一朝一夕にはいかな。故に懺悔文は修行者の心構えなのである。誰が言い出したかは知らないが人生は死ぬまで修行なのだ。うだ。ならば日々懺悔することは死ぬまで続けていかなくてはならない。修行僧ではなくとも檀信徒の皆様には心に留めていただき、日々懺悔文をお唱えいただき、くことを切に願う。



七十一周年ぶりに安乎へ
安乎 古宮 常楽寺に安座

令和五年十月七日秋季祭にて御託宣の儀が行われ、次期安座教区が第四教区に決定し、十二月七日に安乎古宮 常楽寺にて安座奉迎祭が行われました。

安乎地区で回り弁天さんをお迎えするのは昭和二十七年蓮花寺が奉迎してより七十一年ぶりです。

国道二十八号線塩田の交差点を曲がり県道四六九号線を道なりに車を走らせる

商売繁盛 五穀豊稔 所願成就
淡路巡遷妙音弁財天
 まわり弁天さん
 奉迎祭

令和5年 12月7日(木)
 11時よりおつとめ 16時閉帳

洲本市安乎町古宮433
常楽寺
 TEL. 0799(28)0427

令和6年
 1月7日(日) 初弁天祭
 4月18日(木) 春季祭
 7月7日(日) 夏季虫干祭

10月7日(月) 秋季祭
 12月5日(木) 奉送祭

まわり弁天さんのご利益

まわり弁天さんは商売繁盛、金運上昇、病氣平癒をはじめ恋愛や結婚のことから漁業や畜産関係、技芸に学問とあらゆることにご利益を与えて下さる仏さまです。なぜこんなにも沢山の利益を私たちに与えて下さるのかと言えば、まわり弁天さんは常に日天さん、月天さん、聖天さんの三体の仏さまに守られているからです。日天さん、月天さんは太陽と月の仏様で二十四時間三六五日いつでも我々をお守りして下さいます。聖天さんは商売繁盛に対して絶大なご利益を与えて下さる仏さまであり弁天様のご利益を数倍にする働きをして下さいます。ですから縁日である毎月七日

四月十八日 弁財天柴燈大護摩供

四月十八日(木)の春季祭では、午前十一時の大般若転読法会の後、午後一時より境内にて柴燈護摩を厳修します。皆様が申し込まれました願いを添護摩木に込めてお焚き上げいたします。

は勿論のこと、殊更に弁天様を御開帳します六大祭にお参り頂くと家族圓滿で健康やかな一年をお過ごし頂けます。

まわり弁天さまをお迎えして

倭文 観音寺 住職 坂恵正隆

まず、安座奉迎に際しましてご協力頂きました、支所長様を始め弁天課の方々基本信者の方々、観音寺壇信徒の皆様とお参り頂いた皆様はこの場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

さて、当寺は昭和五十六年に前任職故円正僧正が、頭人で奉迎しました。弁天さまはこう言うものか？位な感じで見れていたような次第で、いざお迎えするとなると分かりますばかりでした。毎日の祀り換え朝晩のお勤め、修法と朝の暗い時間から始め香華の水の冷たさ、朝の日の昇る遅さ、時が過ぎ日の出も早くなり香華の水も温むお彼岸、暑くなり日の出も一段と早くなり水も水らしくないお盆、普段はあまり感じなかった季節の移ろい、色んな事に気付かせて頂きました。いつも一緒のように思える一日。しかしながら朝の光、空気の匂い、頬に当たる風一日たりとも同じ時がないこれが諸行無常だと言う事

最後に、私たちが経験した安座奉迎の素晴らしさを体験され弁天さまの広大な福德をお授け頂き幸せに満ちた平和な日常をお過ごし頂きたいと切に願うと共に、淡路巡遷妙音弁財天の歴史を途絶えさせることなく、続いて行く事をお祈りいたします。



第八回 御詠歌・舞踊の発表会
淡路島奉詠舞大会
開催される

詠舞大会を去る令和五年九月二日、五色町で開催しました。

感染予防対策を講じて、西国三十三札所お砂踏み道場を四年ぶりに同時開催としての大会となりました。

久しぶりのお砂踏み道場で、ご来場の皆様にも同心同行の輪が会場に拡がり、盛会のうちに終了いたしました。

令和七年は高野山金剛講創立百周年で本年は京都でお待ち受け全国奉詠舞大会を開催予定でございます。

報恩謝徳の思いを捧げて、金剛講創立百周年大法会を迎えましょう。

稽首礼拝

淡路の紹介
曼荼羅華の里

洲本市由良地区は、中世には洲本の玄関口として栄え、一六二三年には由良城が築城され政庁が置かれ由良湊神社は由良城主の氏神八幡宮の摂社となっていた。一六三五年洲本城が築城され、由良城は廃城となり「由良引け」と呼ばれた町ごと洲本へ移転した。

海潮山観音寺
 洲本市 由良二丁目四十一
 淡路西国三十三ヶ所霊場 第五番

輝江山心蓮寺
 洲本市 由良三丁目五一四

淡路四国八十八ヶ所霊場 第八十八番
 淡路四十九薬師霊場 第二十番

【ご本尊】阿弥陀如来
 【御詠歌】

はるばると 参りを治むる山なれば
 心の蓮 永久に花さく

寺の縁起は不詳ですが、由良湊神社の神宮寺であったのが心蓮寺である。御本尊の阿弥陀如来像は恵心作とされている。

山門は由良城下の蜂須賀藩邸の正門を明治十八年頃修理寄進され移築したものである。瓦には蜂須賀家紋「卍印」が入っている。

【御詠歌】
 底深き 由良の港の縁とこそ聞け
 浮かむは法の縁とこそ聞け

御本尊十一面観世音菩薩(伝弘法大師作)には、足の悪い方が歩けるようになったなどの御利益がある。かつて境内には先山千光寺にあったとされる行者堂があった。鐘楼には昭和四十七年に鑄造された梵鐘が吊られており篤い信仰を物語っている。

高野山真言宗金剛講淡路地方本部・教師会
ご詠歌 四季の集い (敬称略)

令和6年度

春の集い 4月17日(水) 午後7時～9時	講師 / 大照寺本間克信 曲目: 高野の四季
場所 / 護国寺 南あわじ市 賀集八幡732	
夏の集い 7月17日(水) 午後7時～9時	講師 / 神宮寺本多隼大 曲目: 霊峯高野山
場所 / ハ浄寺 淡路市 佐野834	
秋の集い 10月17日(木) 午後2時～4時	講師 / 護国寺三富良園 曲目: 大師信仰
場所 / 榮福寺 南あわじ市 覆利掃守1068	
冬の集い 令和7年 1月17日(金) 午後2時～4時	講師 / 尼ガ寺稲井良俊 曲目: 弘法大師久遠の誓い
場所 / 延長寺 洲本市 鮎原南谷565	

どなたでもお気軽に参加できます。
 ご詠歌とは、五七七の短歌と七五調の和讃句に節(メロディー)をつけて、お唱えする巡礼歌、讃仏歌です。高祖弘法大師第一の御詠歌「有り難や 高野の山の 岩陰に 大師はいまだ 存しますなる」相互供養 相互礼拝 初めての方も大歓迎です。どうぞ一緒に詠歌を始めましょう!

高野山真言宗淡路宗務支所は、参与会会員様へ夏と冬二年二回、ご挨拶状をお送りしています。
 冬には写経用紙とお花の種を同封させて頂いており、右の写真はその種を会員様が大切に育てていただいた様子です。また、写経用紙に際しても「書いて高野山に送ったよ」との声もいただいております、この場を借りて御礼申し上げます。

参与会に詳しい詳細は8面に記載しておりますので、一読ください。

淡路参与会会員様より
お便りが届きました。